

時間分散を味方に つけて 賢い資産運用を

資産運用において、値動きのブレ(リスク)を抑える方法の一つに「時間分散」があります。資金を一括で投資しないでタイミングを分散し、複数回に分けて投資することで購入単価を平準化し、リスクを抑えながら安定的な資産形成をめざすことができます。例えば、リーマン・ショック前の2007年10月末に日経平均株価に「一括」で投資を行なった場合と、同月から毎月、「時間分散」で投資を行なった場合を比較すると、下図のように2015年9月末の増加額は、同じ投資元本であっても、時間分散を行なった場合の方が大きくなっています。これは、リーマン・ショック以降、欧州債務問題や米国の量的緩和の縮小観測の高まりなどを背景に、投資家がリスク回避姿勢を強め、相場が大きく下落した局面においても、購入時期を分散しながら継続的に投資を行なったことで、その後の上昇局面を捉えることができたからと言えます。

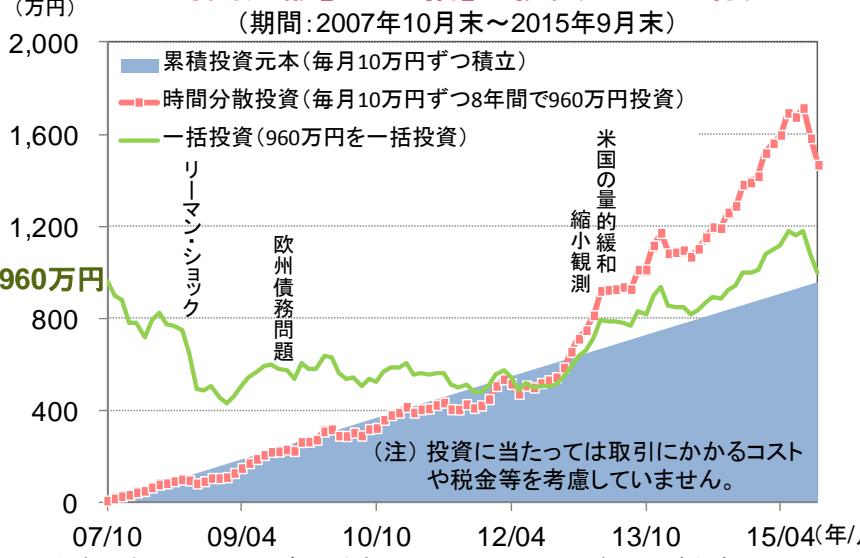
少子高齢化が進んでいる日本では、将来に備えた資産形成の必要性が高まっています。日銀による量的・質的金融緩和の効果により、デフレ脱却が視野に入りつつあるなか、物価上昇以上の比率で資産を増やす必要性が高まる一方、現在の金利は低く、預貯金だけでは十分に資産を増やすことは困難になっていると思われます。

景気が中長期的な拡大に向かっていると見られると考えると、資産形成の選択肢の一つとして株式投資が挙げられます。例えば、10月に入ってからの日本株式市場は米国の利上げ観測の後退に加え、ECB(欧洲中央銀行)のドラギ総裁が22日の理事会後の会見で追加緩和の可能性を強く示唆したことや、続く23日に中国において利下げが発表されたことなどが好感され、上昇傾向となっています。ただし、年末にかけては、米国における利上げ開始が再び意識される可能性が高く、投資家のリスク回避姿勢が強まるようであれば、日本の株式市場においても値動きが大きくなる展開が予想されます。短期的な投資タイミングを的確に捉えることは難しいものの、長期的な視点で、日本株のような資産運用のエンジン役を活用し、「時間分散」を味方につけ、賢い投資を行なえば、将来の資産形成に大きく寄与することができる期待されます。

日経平均株価に

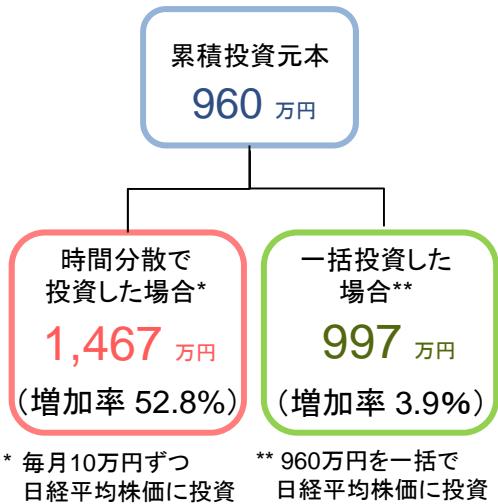
「時間分散」と「一括」で投資^(注)した場合

(期間:2007年10月末~2015年9月末)



投資成果のイメージ

(投資期間:2007年10月末~2015年9月末)



※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成 ※積立投資が必ず利益があがることを保証するものではありません。
※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。